

西ブロック研究主題

主体的・対話的で深い学びを通して、思考力・判断力・表現力を高める生活科教育の在り方

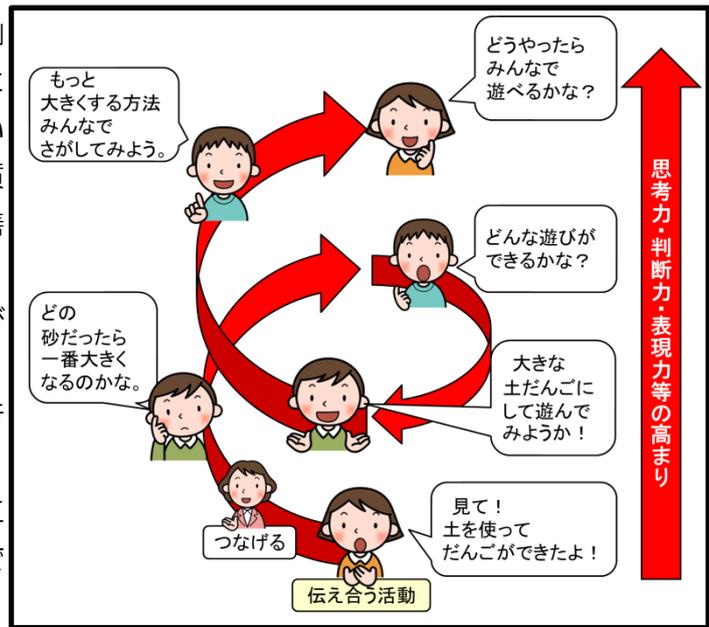
主体的・対話的で深い学びを通して、

思考力・判断力・表現力等を高める生活科教育の在り方

1. 目指す子どもの姿

生活科における「主体的・対話的で深い学び」とは、子どもが活動に興味をもったり、友達と自分の考えや、思いや願いを伝え合う活動といった「主体的・対話的な学び」と、気づきの質を高めていく「深い学び」を実現する授業改善の視点のことである。

生活科における「主体的・対話的で深い学びを通して、思考力・判断力・表現力等を高める」とは、教師が授業改善の視点をもって授業を行うことで、対象に関する子どもの思いや願い、考えが結びつき、対象に対して考えたことや工夫したことが高まっていくことである。本校では、研究主題を実現するために、本年度は特に、「対話的な学び」に重点を置いて、子ども自身、子ども同士が思いや願い、考えを高めるための伝え合う活動の研究を進めていく。



資料1 目指す子どもの姿

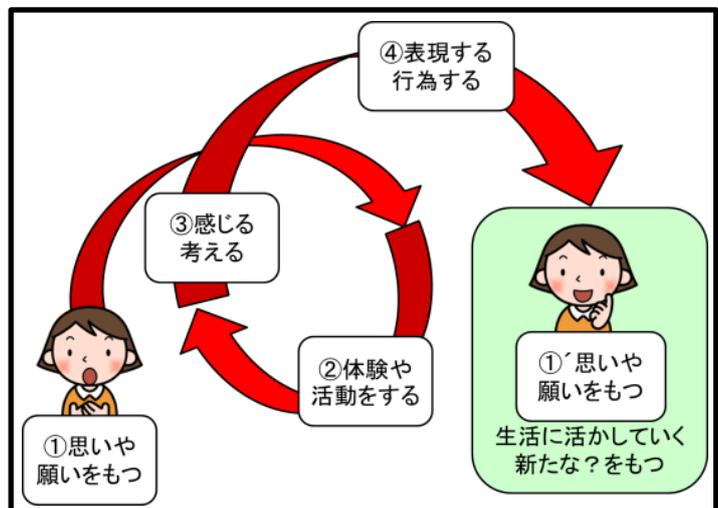
2. 主題に迫る手立て

(1) 試行錯誤や繰り返す活動を組み入れた学習展開の工夫

幼児期の子どもは、自分の思いや願いの実現を目指して、遊びの中で、試しては改良し、何度も同じ遊びを繰り返す。その過程で様々な思考をし、結果として気づきを得る。生活科では、このような幼児期の学びをさらに積み上げ、連続・発展できるようにしていく必要がある。

「子どもの試行錯誤や繰り返す活動を組み入れた学習展開の工夫」とは、子どもが試行錯誤して何度も挑戦したり、繰り返し身近な人、社会、自然と関わったりすることができるような学習展開にしていくことである。

具体的には、資料2のように、子どもが試行



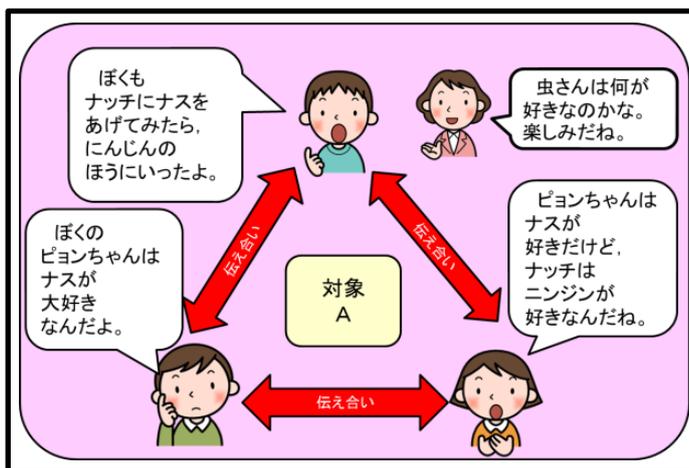
資料2 生活科の学習プロセス

錯誤や繰り返す活動を行うに当たって、①思いや願いをもつ、②活動や体験をする、③感じる・考える、④表現する・行為する、といったプロセスを学習展開の中に組み込んでいくようにする。ただし、このプロセスは順序ではなく、子どもの思いや願いによって、入れ替わることもあるし、複数が同時に行われる場合もある。これらプロセスを、子どもの思いや願いによって柔軟に学習展開の中に落とし込むことによって、対象に関する子どもの思いや願い、考えが結びつき、対象に対して考えたことや工夫したことが高まっていくと考えられる。

(2) 伝え合う活動の工夫

「伝え合う活動」とは、自分が発見したこと、工夫したことについて、「聞いてほしい」「見てほしい」という強い思いをもって、友達や教師、地域の人など多様な人と触れ合い、発信し交流する活動のことである。

そこで、「見付ける・比べる・たどる」「試す・見通す・工夫する」などの学習活動を仕組み、新たな気付きを持つ。その気付きを学習過程のさまざまな場面で伝え合うようにする。その際、自分の思いや願い、見付けたこと等をカードや絵地図等には書き込み、伝え合う活動が充実するようにする。



資料3 伝え合う活動の工夫

このような活動を設定することで、「自分との関わりにおいて対象を捉える」という見方と「自分の思いや願いを実現させる」という考え方を生かすことができると考える。

(3) 学習評価の工夫

子どもが対象と繰り返し関わることで得られた、一人一人の気付きをつなげ、共有し、気付きの質を高めていくことが大切である。そのために、振り返り表現する機会の在り方や、子どもに対する声かけ、子どもの発言への価値付け等の働きかけを充実させるようにする。

そこで、教師は、子ども一人一人の思いや願い、考えを常に生かすことができるように、表現物や対話内容、行動などから具体的な子どもの姿を見取る。そして、支援内容を考え、言葉かけなどの働きかけをし、子どもの思考力・判断力・表現力等を高めていくことができるようにする。